

# 統合型ソフトを利用した経営設計支援システム平成8年度版『経営くん』

(農試経営部)

## 1 背景とねらい

平成元年度に普及奨励事項として供された経営設計支援システム「経営くん」は、技術体系の作成・シミュレーション及びきめ細かい経営設計をする上で大いに利用されているところである。

ところで、平成8年3月に農業経営の設計指標である「生産技術体系」が改訂になったことに伴い、『経営くん』に登録されている各種データベースを更新するとともに、Windows版のソフトでも使用可能にしたので、指導上の参考に供する。

## 2 技術の内容

『経営くん』は、作目別技術体系に使用されているあらゆる資材・機械等をデータベース化し、それを表計算ソフトを利用して検索・抽出し、技術体系を作成・シミュレーションするシステムである。

### (1) データベースの内容

新しい生産技術体系に使用されている資材・機械等のデータを改訂・更新したうえに、さらに、Windows版では各費目ごとに独立したデータベースとした。データベースの種類及び登録項目は次のとおりである。

(ア) 生産資材データベース(12費目 654データ)

(イ) 諸材料データベース(1費目 464データ)

(ウ) 農業施設データベース(1費目 88データ)

(エ) 農業機械データベース(2費目 467データ)

(オ) 出荷経費データベース(1費目 277データ)

### (2) システムの機能(利用体系図は図1)

(ア) 技術体系作成: データベースから該当資材・機械等のコードを指定し、その使用数量・使用時間等を入力するだけで、技術体系及び経営収支を作成できる。

(イ) 経営収支シミュレーション: 生産資材・使用数量・単価・収量・販売単価等の条件を変更することによって、経営収支のシミュレーションができる。

(ウ) 複合経営診断設計システム用データ入力帳票作成: 作成した技術体系のデータを、「複合経営診断設計システム」に登録する入力帳票で出力できる。

### (3) 技術体系

改訂・更新により登録した技術体系は次のとおりである。

また、登録済みの技術体系のデータは、専門技術員・農業改良普及員等が作成したものである。

作目	水稻	畜産	野菜	花き	果樹	養蚕	工業作物	普通畑作物	菌茸類	計
技術体系数	8	11	87	32	8	3	2	7	4	162

## 3 指導上の留意事項

(1) 本システムは、市販の表計算ソフトを用いて、改訂・更新した。利用する場合は、別途に表計算ソフトがインストールされている機器が必要となる。

提供できるのは、データベース・経営試算表・技術体系が保存されているフロッピーディスクだけである。

・使用機器 コンピュータ本体、ディスプレイ、プリンタ

・使用ソフト Lotus1-2-3 R2.1J plus以上 または Excel ver5.0以上

(2) 新たに技術体系を作成する場合、旬別労働時間を別途入力しなければならない。

4 試験成績の概要

図1 『経営くん』利用体系図

